

平成30年度 特別活動実践・研究計画

| | |
|----|---------------------------------|
| 部員 | ○渡部誠一郎，佐々木雅巳，鈴木聡，石井史知，高橋裕和，佐々木恵 |
|----|---------------------------------|

研究テーマ

仲間とのかかわりを主体的に求め，学校生活の充実と向上を
目指す子どもを育む学び
～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～

1 研究テーマについて

昨年度の1年 A 組の実践「なかよしタイムパートⅢをしよう」では，司会グループへの事前の支援や学級会カードの活用などを通して，よりよい合意形成を目指す話し合い活動が展開された。また，提案者によるアイデアのプレゼンテーションや「お試し」の活動の場を取り入れたことで，視点や論点を明確にして話し合う姿につながった。その一方で，子どもの真の主体的な学びに関して課題が残ったと考える。

そこで，今年度特別活動部では，さらに「何を，どのように学ぶべきか」自ら判断し取り組む主体性の向上に向けた研究を推進していくために，研究テーマを上記のように設定した。

「仲間とのかかわりを主体的に求め，学校生活の充実と向上を目指す」ことは，集団活動を基盤として自主的，実践的な活動を繰り返し経験することで，互いのよさや可能性を認め，生かし，伸ばし合うことの有用性を実感することであると考える。ここから，特別活動における「自律した学習者」を，「課題を解決するための話し合い活動を通してよりよい人間関係を形成しようとする」姿であるととらえた。また，「学びをつなぐ」を，身に付けた資質・能力を集団や自己の生活をよりよくするために活用しようとしたりして，能動的に学び続けようとする姿ととらえる。

「よりよい人間関係を形成する」とは，議題の解決や活動の遂行を通して子どもたちが感じるであろう仲間と話し合うことのよさ，自分たちで活動を進める楽しさ，協力して活動を成功させる喜び等を味わうことによって，子どもたち同士が集団の中で認め合い高め合うことと考える。そのような望ましい集団活動を通して，自分たちを取り巻く諸問題を解決しながらよりよい人間関係や生活を形成していく力を培うことは，今後，社会の中で生きていく子どもたちに求められている資質・能力である。

そのために特に大事にしたいのが，話し合い活動である。学級活動においては，学級・学校における生活上の課題を解決するためには，「自分にとってよい」という利己主義的なものではなく，「自分もよく，みんなにとってもよいこと」とは何かを，話し合いによって合意形成を図っていくことが大切であり，そのためには，学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせる必要がある。子どもが互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決し，よりよく成長し合えるような集団活動を，学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら展開することを通して，資質・能力を育むことが大切だと考える。

そこで，特別活動における「学びをつなぎ資質・能力を高めている子どもの姿」を，以下のように設定する。

話し合い活動において他者の意見について共感的かつ建設的にかかわり，学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら，自分たちの生活がよりよくなるような考えを主体的・協働的に導き出そうとする姿

2 研究の重点

(1) 成長の実感と次の活動への意欲が連続していくことができるような自己を見つける場の工夫

子ども自身が問題意識をもって話し合いを重ね、よりよい考えを主体的・協働的に導き出し、自己の生き方についての深化につながるよう、問題意識の共有化を図る。また、自分自身の学びを自覚・省察することができるように、話し合いや準備・集会活動等全体を通して自分がどう取り組んで、どう成長したのかを振り返る場を大切にしていく。そして、実践によって生まれた自己有用感が、子どもたちの学びを進める力を高めることに結びつくような支援を行う。こうした学習の積み重ねによって、個の力の高まりと集団としての質の向上が相互に作用し合い、次の活動への意欲となり、主体的な学びにつながっていくことを目指す。

また、学級会においては、子どもの考えの変容や、話し合いの資質・能力がいかにか高まっているかを見取ることが肝要である。そのために、子どもたちの発言の意図を汲み取りながら聴き、よい発言を価値付け、即時評価を積み重ねていく。このような教師の姿勢が、子どもたちの自己評価力、相互評価力、そしてよりよい合意形成ができた喜びや自己有用感を味わいながら活動を推進していく姿につながるものと考えらる。

(2) よりよい合意形成のための資質・能力向上を目指した話し合い活動の充実

質の高い深い学びを実現するためには、特別活動の特質に応じた物事をとらえる「見方・考え方」を働かせることが求められる。そして、「話し合いの資質・能力表」をもとに司会グループ・参加者がそれぞれの役割を理解し合い、互いに連携しながら話し合いを進められるような支援を行う。

学級会での話し合いにおいては、利己主義的なものではなく、「自分もよく、みんなにとってもよい」「みんなが納得できる」意見へと合意形成を図ることができるよう支援していく。異なる意見や考えをもとに、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりする経験を積むことが、将来にわたって大切だと考えるからである。そのために、話し合い活動において話し合う目的や話し合いの視点などを明確にしながらか集団で思考し、合意形成を図るなど、子ども自身が学級や学校の形成者としての「見方・考え方」の有効性に気付き、適時意識的に活用できるようにする。

3 研究・研修計画

| 時 期 | 主な研究・研修行事 | 研究・研修内容 |
|------|--|-------------------------------------|
| 1 学期 | ・ 特別活動部会 ・ 附属中学校公開研究協議会 (6/1) | ・ 研究計画の立案，部内組織の確立 ・ 附属中特活部への研究協力 |
| 2 学期 | ・ 第1回オープン研 (10/19) 提案授業 (6A：渡部) ・ 附属中学校部内研 | ・ 小中連携，共同実践研究 |
| 3 学期 | ・ 研究紀要原稿執筆 ・ 特別活動部会 | ・ 提案授業を通しての検証 ・ 実践・研究のまとめ |

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正